

名誉会員

岩本常次氏のご逝去をいたむ



本学会 名誉会員 岩本常次氏は、平成5年10月8日心不全のため、東京都港区の前田外科病院で逝去されました。享年90歳でした。

岩本氏は、明治36年に兵庫県に生れ、昭和2年東京大学工学部土木工学科をご卒業後、上毛電力㈱に入社、昭和16年に戦時体制下で統合された日本発送電㈱に移り、昭和22年日本発送電北海道支店土木部長として北海道に赴任された。

その後、昭和26年電力再編により北海道電力㈱理事土木部長として迎えられ、昭和27年取締役、同31年常務取締役、同35年副社長、同41年社長、同49年会長に就任され、同58年以降は相談役として現在まで電力分野の実務と技術の両面にわたって、幅広い活躍をされました。

氏は土質工学会において、昭和32年北海道支部の2代目支部長として会員の確保や予算の立案など困難な諸業務を推進され、創立期の支部の基を確立されました。その後も支部評議員として支部の発展と運営に当たられました。

深遠な志向と学識をもって上毛電力時代に恩師物部長穂博士が完成した耐震設計理論に基づく扶壁式コンクリートダムを本邦で初めて、丸沼ダムの設計施工に適用されました。

その後、北海道においては戦後の旺盛な電力需要に対し、電源拡充の最高責任者の立場で寧日ない活動を続けられました。

特に、内外にもあまり例のない1000km²に及ぶ人跡未踏の区域に自由な流域変更方式を駆使した日高一貫開発水力計画の構想を樹立し、その実現にあたって劣悪な変成岩・膨脹性岩など広く分布し、大断層、地すべり地帯が存在する複雑な地形、地質を克服し、その時どきの最新技術を駆使しながら完成に導かれました。さらには、厳しい社会・自然環境を克服して火力や原子力等の大型電源や流通設備の充実強化にも尽力されました。

一方、北電の会長となられてからは、北海道経済連合会や北海道開発審議会会長など、数々の要職につかれ北海道の産業経済界の大御所として地域の発展にも大きな役割を果たしました。

これらの功績により昭和55年には北海道開発功労賞ならびに勲一等瑞宝章を受けられております。

人柄は温厚誠実ながら秀れた企画力と実行力、そして指導力をもって多方面にわたる多大なご功績を果たしたことに對し、深く感謝し、敬意を表すものであります。

ここに生前のお姿を偲びつつ謹んでご冥福をお祈りいたします。

(元北海道電力株式会社副社長 大橋康次)

社団法人 土質工学会